



第6回のSSH通信となります。今回は「A Iのプレゼンテーション講演会」と「サイエンスキャッスル2017」、「天高生による小学生対象プログラミング講座」、「遠隔通信の活用」についてお知らせします。

プレゼンテーション講演会 (株)日本マイクロソフト・インジェリスト 西脇資哲 様

12月16日(土)に天草高校体育館で、1年生に対してプレゼンテーション講演会を実施しました。講師は、日本マイクロソフト株式会社・エバンジェリストの西脇資哲様です。プレゼンテーションに関わる様々なテクニック(見せ方や話し方、話の作り方など)を、具体例を交えながら、わかりやすく、印象に残るように伝えていただきました。



講演内容「プレゼンテーションの極意」

- ◆ プレゼンテーションとは相手を動かすことである。
- ◆ これからの社会ではアウトプット(伝える力)が必要不可欠であり、高校生のうちに学んでおけば必ず役に立つ。
- ◆ 小学生のプレゼンテーション能力はすごい。動いてなんぼ!
- ◆ 「話す=聞く=見る」を一致させる。視点誘導など、相手が見ていることを意識したプレゼンテーションが大事。

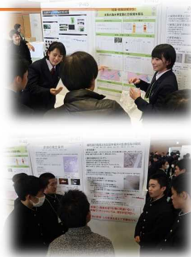
【生徒感想】

- 将来にも必ず役立つ内容でした。人を惹きつけられるようなプレゼンをやってみようと思います。
- 驚きの連続でした。身振り手振りなどを普段から意識しようと思いました。
- 具体例がCMやTVの中に出てくる内容であったりしてわかりやすかったです。
- 同じことを話すとしても、様々な工夫をして話す方がわかりやすいことがとてもわかりました。
- 明日のサイエンスキャッスルで早速活用してみます。

サイエンスキャッスル2017 in 水俣高校

12月17日(日)に水俣高校で、サイエンスキャッスル2017が開催されました。本校からは、科学部3班と1年生課題研究班のうち4班の計27名が参加しました。サイエンスキャッスルは日本最大の中高生のための学会といわれており、九州・東北・関東・関西の全国4カ所で開催されています。シンガポール大会もあります。

本校は、九州ブロック大会のポスター発表に参加しました。ポスターセッションでは、科学部1年生の福田さんが「天草のゲンジボタルについて」の発表で優秀賞(2位相当)を受賞しました。



天高生による小学生対象プログラミング講座



12月25日(月)と26日(火)に天草高校学習センター2Fで、天草高校1年生6名が小学校1~6年生を対象にプログラミング講座を行いました。新学習指導要領の中に「小学校6年間の中でプログラミング授業を実施する」という内容があり、モデルとなる取組を行えないかと考えた班の思いに応える形で実現しました。天草市・上天草市・苓北町の広い範囲から応募があり、合計60名に対して実施しました。参加した小学生は「プログラミングは初めてだったけど、楽しかったです」「ときどき曲がったりしたけど、ロボットが動いてブロックを取ったのでよかったです」などの感想を發表しました。身の回りにある機械がプログラミングによって動いていると考える一つのきっかけになればと思います。

今回の講座は、次の項目に留意して指導を行う。

- ① 児童たちが『楽しい』と思うことを重視し、簡潔かつ丁寧な説明を行う。
- ② 発問等を行いながら、児童の様子をうかがい、児童にとってテンポの良い講座を心がける。
- ③ 説明を聞く時間、活動をする時間、考えを深める時間などをわけ、明確に示すことを心がける。
- ④ コミュニケーションをとる場として、お互いの意見を尊重し合えるような指導に心がける。

参加生徒をイメージした生徒観

講座の指導計画

内容・時間	児童	指導
導入(5分) 自己紹介 コミュニケーションゲーム	各班でそれぞれの親睦を深める。	指導者が先に自己紹介をすることで、小学生が話しやすい雰囲気づくる。 すぐに仲良くしてもらうような声掛け等を心がける。
本時の説明(5分) 基本動作3種の説明 活動時間の説明	LEGO がどのように動くか自分の意見を持ち、班の人と話し合いながら協力して理解を深める。	発問をしながら理解をしてもらう。また、基本動作について班で話し合う時に解決できるような助言を行う。
班活動(25分) 各班のゴールを実演する。 プログラムを作成する。 LEGOの動作を確認する。	事前説明や高校生の助言をもとに個人でプログラムを作成する。その後、班員で話し合い、どの考えが解答と同じプログラムなのかを考えて実際にLEGOを動かす。	原則として、解答を指導者が教えない。あくまで、小学生のプログラミングを実行して失敗しても良いと指導者が気を付けておく。
発表(10分) 各班のプログラミングを説明し、LEGOを動かす。	発表する班の机に他の班が移動して発表を聞く。	班の意見を伝えることができるようにサポートする。
まとめ(5分)	振り返り、まとめを行う。	導入で話した内容と、実際に活動したことをリンクさせる。プログラミングが世の中に役立っていることを実感させる。

↑指導案



遠隔通信の活用事例 (高森高校生に向けた遠隔授業・長崎大学との交流)



12月1日(金)に松田指導教諭が高森高校生に向けて、数学Iの遠隔授業を実施しました。双方の月別平均気温について、データの分析を行いました。



12月21日(木)に長崎大学水産学部の先生方とSkypeで交流し、課題研究に助言をいただきました。